

第3回愛環音楽祭

ベートーヴェンの贈り物

～第九への道～



2001年9月16日（日）14：00 岡崎市民会館

主催：愛環音楽連盟 後援：愛知県・愛知県教育委員会・岡崎市・岡崎市教育委員会・岡崎文化協会・愛知環状鉄道株式会社



愛環音楽連盟会長
伊藤 眞一郎

本日は愛環音楽祭にご来場下さいましてありがとうございます。今回は第3回目の音楽祭になります。愛環鉄道によって結ばれた四つの都市の音楽愛好団体が、一緒になって音楽祭を開くことは、音楽による交流を通して地方文化の発展に意義のあることであります。

今回はクラシック音楽の象徴ともいべきベートーヴェンの音楽をとりあげました。幾多の苦難を乗り越えて生きぬいた彼の音楽は、私たちに生きる勇気と喜びを与えてくれます。この音楽会の前座として、去る7月21日には南山大学名誉教授 内藤克彦氏を迎えて「歓喜の歌」の研究会を催し、音楽の教養を深めました。

21世紀はこれまでの画一的な中央中心の文化から、多彩な地方文化の時代になるともいわれております。まず近隣の人と人との交流があって、そのうちに友情が芽ばえ、愛の環となって拡がってゆき、みんなが生きる喜びを味わうことのできる環境を作ることが大切であります。

2005年には瀬戸で愛知万博が開かれます。世界の人びとがこの地方を注目することになります。良き自然と良き文化を誇りをもって世界の人びとに見せたいものです。愛環音楽連盟もそれをめざして努力致します。

今後とも皆さま方のますますのご支援とご協力をお願い申し上げます。



愛環音楽連盟理事長
都築 正道

真実はわれわれを自由にする

本日は、愛環音楽連盟主催の「第3回愛環音楽祭」へようこそおいで下さいました。私たちの音楽祭は、愛知環状鉄道によって結ばれている4都市（岡崎・豊田・瀬戸・春日井）の音楽団体が、毎年、各駅停車の回り持ちで開くものです。本年度は岡崎が主管です。

岡崎の実行委員会が選んだテーマが、「ベートーヴェンの贈り物：第九への道」です。このテーマによって、彼が54歳の時に書いた「第九」から、逆のパスパクティヴによって、ベートーヴェンの生涯と作品の魅力と真実に迫ろうというものです。ベートーヴェンの「第九」にいたる平坦ならざる道を、初秋の休日の気楽なハイキングのつもりで、愛環音楽連盟のメンバーと地元岡崎の音楽家のみなさまと一緒に歩いてみましょう。

さらに、団結と知性と奉仕と食欲さを重んじる岡崎の実行委員会は、ベートーヴェンの「第九交響曲」を、ただ、音楽的に歌い、演奏するだけでなく、いえ、そのためにも、「シラーの詩の真実に迫ろう」と考えて、愛環音楽連盟のメンバーとすべての「第九」ファンへの理解と認識を新たにすべく、「第九」の定訳を試みました。それが、第3回愛環音楽祭の「第1部・シンポジウム "An die Freude" の詩と真実」の開催です[2001年7月21日・岡崎市民会館]。

このシンポジウムで学んだ成果をもとに、本日、私たちは、「第九」の第4楽章を演奏いたします。これまで以上に、ベートーヴェンとシラーの精神を体現した、感動的な「第九」になるものと存じます。ここでも、真実はわれわれを自由にするでしょう。ご期待下さい。

指揮者の加藤完二先生や吉川朗先生をはじめ、ご出演下さいました演奏家のみなさまとドイツ語の発音のご指導をお願いしました小黒びるぎった先生にあつくお礼申し上げます。また、今回の音楽祭に、ご協賛・ご賛助・ご支援下さったみなさまに心からお礼申し上げます。

それでは、ごゆっくり、ベートーヴェンの音楽の魅力の数々をお楽しみ下さい。



愛知県知事
神田 真秋

このたび、愛環音楽連盟により第3回「愛環音楽祭」ベートーヴェンの贈り物～第九への道～が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

愛知環状鉄道で結ばれた岡崎、豊田、瀬戸、春日井の4都市のアマチュアのオーケストラと合唱団が結成されてから4年が経過し、愛環音楽連盟の皆様が緊密な相互交流のもと、「愛環音楽祭」を始め常に意欲的なプログラムによる音楽活動を展開されておられますことは、誠に意義深く、心から敬意を表する次第であります。

さて、現在愛知県では、中部国際空港の開港や国際博覧会の開催など、地球規模での交流の場となる魅力あふれる愛知づくりのための国家プロジェクトを着実に進めているところでございます。

こうした中で、愛環音楽連盟の皆様が取り組んでおられます音楽文化の振興をめざした積極的な活動は、人々の心にゆとりや潤いを与え、当地域の交流の輪をさらに広げる力になるものと期待しております。

また、本県文化の普及・振興に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本演奏会のご盛会と愛環音楽連盟の今後ますますのご活躍を心より祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



岡崎市長
柴田 紘一

本日ここに、愛環音楽連盟の皆様により「第3回愛環音楽祭 ベートーヴェンの贈り物」が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴連盟は、春日井、瀬戸、豊田、岡崎と愛知環状鉄道で結ばれた4つの都市で活躍される音楽団体の皆様が続々と、1997年の春に設立されました。その後着実に発展を続け、イベントとしての音楽祭も今回で第3回を迎えられましたことは誠に喜ばしく、深く敬意を表する次第であります。

本日のステージは、交響曲第九番をはじめベートーヴェンの数々の名曲の中から「エリーゼのために」や「君を愛す」などの「愛」をテーマにした作品により構成されております。これはまさに愛環音楽連盟の名称のとおり、4つの隣接都市による「愛の環」の広がりが表現される、華やかな中にも伝統の重さを感じさせる素晴らしい演奏会になるものと思います。

本日ご出演される皆様の日頃の練習の成果を存分に発揮されることを期待するとともに、ご参会の皆様のご健勝とご多幸、並びに貴連盟のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶といたします。

Program

Ludwig van Beethoven (1770 ~1827)

第1部 波瀾の生涯

1.天才の生い立ちとその時代

バガテル イ短調 WoO 59 「エリーゼのために」 ピアノ独奏/大原彩香

アデライーデ Op. 46 ソプラノ独唱/安藤恭子 ピアノ伴奏/都筑友香

2.ウィーンで活躍

ヴァイオリン・ソナタ第5番 へ長調 Op. 24 「春」 から 第1楽章

ヴァイオリン独奏/堀内久美 ピアノ伴奏/都筑友香

3.傑作の森

ピアノ・ソナタ第23番 へ短調 Op. 57 「熱情」 から 第3楽章 ピアノ独奏/太田祐子

4.まとめ

君を愛す WoO 123 テノール独唱/鎗木勇樹 ピアノ伴奏/河内紀子

ゲレルトによる6つの歌 Op. 48 から 第4曲 「自然における神の栄光」

テノール/鎗木勇樹 合唱/愛環音楽連盟合唱団 管弦楽/愛環音楽連盟オーケストラ 指揮/吉川朗

休憩

第2部 第九への道

1.シンフォニーの流れ

交響曲第1番 へ長調 Op. 21から

交響曲第3番 変ホ長調 Op. 55 「英雄」 から

交響曲第5番 へ短調 Op. 67 「運命」 から

交響曲第6番 へ長調 Op. 68 「田園」 から

2.第九講座

“An die Freude” 朗読/小黑びるぎった

3.シンフォニーの結晶

交響曲第9番 ニ短調 Op. 125 「合唱」 から 第4楽章

ソプラノ/安藤恭子 アルト/三輪晴美 テノール/鎗木勇樹 バリトン/松下伸也

合唱/愛環音楽連盟合唱団 管弦楽/愛環音楽連盟オーケストラ 指揮/加藤完二

合唱指揮 岡崎/鎗木勇樹 豊田/吉川朗 瀬戸/松下伸也 春日井/吉川朗

司会・お話/都築正道



指揮者
加藤 完二

1981年大阪音楽大学器楽専攻ヴァイオリン科卒業。在学中に大学の恩師辻井清幸氏のすすめで指揮者を志す。卒業後本格的に松尾昌美氏に師事。その後関西二期会や関西歌劇団で朝比奈隆、小泉和裕、手塚幸紀氏らの副指揮者として研鑽を積む。大阪音大の学生オペラを指揮したのを皮切りに日本各地のオペラ団体を指揮。

1991年ボストンのタングルウッド音楽祭に参加。この年に伊丹市芸術家協会新人奨励賞、兵庫県より新人芸術家奨励賞をそれぞれ受賞。その年に結成された全国でも珍しい、伊丹アイフニックホール専属のプロ、アマ混合のオーケストラ、伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任。

1992年ルーマニアで行われた「第二回ディヌ・ニコレスク国際指揮者コンクール」において入賞、審査員特別賞を受賞。1996年より京都市交響楽団の巡回コンサートや学校コンサートを指揮。1997年よりクレフ室内管弦楽団を主宰し、室内オペラ「チマローザ：新・宮廷楽士長」は誰にでも楽しめるオペラとして好評を得ている。

1998年にはルーマニア国王トゥルグ・ムレシュ管弦楽団の冬の音楽祭に招聘されオペラ「マスカーニ：カヴァレリア・ルスティカーナ」等を指揮、好評を得る。この年より、FMいたみ〔79.4MHz〕において「加藤完二のお気楽クラシック」(月～金 12:50～13:00放送)のパーソナリティーとして新しい分野にも挑戦中。

現在 伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団音楽監督 大阪音楽大学非常勤講師



指揮者
吉川 朗

愛知教育大学音楽科(ピアノ)卒業。同大学院(作曲)修了。

1990年より名古屋芸術大学、名古屋オペラ協会、愛知県文化振興事業団、名古屋市文化振興事業団、名古屋二期会などにおいてアシスタントとして40本近くの前作、オペレッタ、ミュージカルに携わる。

1991年「紫のドレス」でのオペラ・デビュー以来、「ヘンゼルとグレーテル」「唐人お吉」「のはらひめ」を指揮。

Parsley(春日井)の音楽ディレクター。ピュア・スカラ(小牧)、Parsley(春日井)、アンサンブル風雅(名古屋)、小牧混声合唱団、豊田市民合唱団 指揮。

NHK岐阜文化センターにおいてゴスペルの講座を持ち、小牧でK.F.M.C.というゴスペルクワイアのリーダーを務める。

第九指導は1987年の半田第九に始まり、ナゴヤシティ管弦楽団(現セントラル愛知交響楽団)、一宮第九を歌う会、春日井第九合唱団、愛環音楽連盟など。

名古屋芸術大学音楽学部オペラ研究室実技補助員、大垣女子短期大学非常勤講師を経て、現在 NHKナゴヤニューサウンズオーケストラ常任指揮。

Soloist Profile



ソプラノ
安藤 恭子

愛知県立明和高等学校音楽科ピアノ科卒。国立音楽大学声楽科卒業。清水博子、竹村令、山本みよ子の各氏に師事。

同大学新人演奏会、中日新聞社・名古屋音楽学校学友会による新人演奏会出演。

ドヴォルザーク・チェンバーオーケストラと競演。ドイツ、フランス、ブルガリア、岡崎市民音楽祭、東京、大阪などのオペラ、コンサートに出演。

オペラアンサンブル「歌暦」会員。岡崎せきれい女性コーラス、岡崎「第九」をうたう会を指導している。名古屋音楽学校講師。



アルト
三輪 晴美

岡崎市出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。昭和62年度文化庁芸術家国内研修員修了。

鈴木和美、伊藤克行、小野光子、火田和子、武田陽子の各氏に師事。

短期間の渡伊にて、F・フェラーリス、F・アルバ、V・ヴォローニの各氏に師事、指導を受ける。

オペラ、オペレッタ、歌曲、宗教曲やベートーヴェン「第九」のソリストとして出演。実験工房「KOMACHI」でも活躍中。岡崎音楽家協会会員。岡崎女性コーラス指揮者。

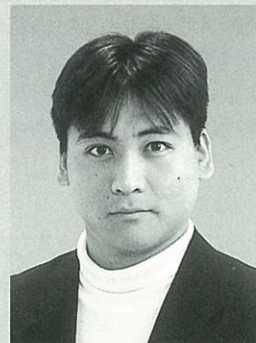


テノール
楠木 勇樹

千葉県出身。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院修了。石津憲一、曾我淑人、神田詩朗、西義一の各氏に師事。

名古屋二期会オペラ「フィガロの結婚」パジリオでオペラデビュー。「ねじの回転」「ピーター・グライムズ」等出演。

名古屋オペラ協会「額田女王」「魔笛」「琵琶白菊物語」「天守物語」「夕鶴」「祝い歌が流れる夜に」、仙台フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会「トスカ」、名古屋市文化振興事業団公演「こうもり」「フィガロの結婚」「メリー・ウイドウ」等、多くのオペラ、コンサート出演とともに名古屋周辺の多くのコーラス団体の指揮、指導を務める。南山高等学校非常勤講師、名古屋オペラ協会会員。



バリトン
松下 伸也

静岡県焼津市出身。愛知県立芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。声楽を藤井京子、福島明也の各氏に師事。

在学中、演奏会形式「コシ・ファン・トゥッテ」グリエルモでデビュー。「秘密の結婚」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「カルメン」「ボエーム」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「ヘンゼルとグレートル」「メリー・ウイドウ」「祝い歌が流れる夜に」などオペラ、オペレッタに数多く出演。新作、初演のオペラにキャスト、スタッフとして参加する。ミサ、メサイア、ベートーヴェン「第九」等多くのコンサートに出演。名古屋音楽学校講師。



司会
都築 正道

1940年名古屋生まれ。名古屋大学文学部美学卒業。関西学院大学大学院文学部美学博士課程修了。ワーグナーの楽劇論で文学博士（関学）。愛環音楽連盟理事長。春日井市交響楽団音楽監督。（財）かすかひ市民文化財団理事。名古屋オペラ・サロン主宰。名古屋ナポリ協会会長。朝日新聞音楽評担当。音楽学会会員。主著「音と言葉の美学」（音楽之友社）・「あくびなしの音楽講座：トスカ」（同）



ヴァイオリン
堀内 久美

5歳から弾き始め、近藤富雄、松野友子、中瀬裕道、田中千香土、原田幸一郎の各氏に師事。東京音楽大学卒業。

現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、室内楽団などと演奏活動を行っている。また岡崎ジュニア・シンフォニックオーケストラ指導や自宅において後進の指導にもあたっている。

1995、1999年岡崎フィルハーモニー交響楽団、1998年豊田フィルハーモニー交響楽団とコンチェルトを共演。岡崎バレエ弦楽四重奏団、レコルデイトリオメンバー。岡崎音楽家協会会員。



ピアノ
太田 祐子

名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻卒業、同大学院音楽研究科修了。音楽特別コースでウィーンにてH・ペーターマンドル氏の指導を受ける。名古屋、岡崎他各地でコンサートやリサイタル、伴奏等を行う。

第7回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。第8回全国ソリストコンテスト入選。1998、1999年ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団とベートーヴェン、グリーグのコンチェルトを共演。石原愛子、八神和枝、高良芳江、水本雄三、ポト・レヘル、杉谷昭子の各氏に師事。愛知学泉短期大学非常勤講師。岡崎音楽家協会、コンサート・グループ「花の詩」会員



ピアノ
大原 彩華

1995年、第19回豊橋TMCピアノコンクール本選の部B部門金賞、1996年、第13回ピアノオーディション奨励賞、1997年、ヤマハピアノフェスティバルin三河本選会Bクラス優秀賞、1998年、第8回日本クラシック音楽コンクール全国大会小学校の部入選、1999年、PTNA Piano Competition 中部日本地区本選名古屋支部奨励賞、第16回ピアノオーディション奨励賞全国大会出場。2000年、第17回ピアノオーディション奨励賞受賞。

現在、安藤恭子、松野稀一氏に師事。岡崎市立竜海中学校2学年に在学中。



ピアノ伴奏
都筑 友香

愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒。岡崎音楽家協会による各演奏会に出演。岡崎市による第21回岡崎市民音楽祭「おかざき・音楽の秋コンサート」ではリストの「ピアノ協奏曲第一番」を演奏。その他、器楽、声楽等の伴奏も行う。北村多衛子、加藤久美子、八神和枝、水本雄三、青木恵子の各氏に師事。

岡崎「第九」をうたう会、岡崎せきれい女性コーラス伴奏者。岡崎音楽家協会会員。現在、愛知学泉短期大学非常勤講師。



ピアノ伴奏
河内 紀子

愛知県立明和高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。

ガザボン田島美保子、伊藤ふみ子、杉浦日出夫、松本総一郎、二宮裕子の各氏に師事。学内にてヴォスクレセンスキー氏の公開レッスンを受講。

名古屋、岡崎、三好での新人演奏会、岡崎音楽家協会第12回及び第13回定期演奏会、アルマ・21世紀へのコンサート第16回、第31回、11回全日本ソリストコンテスト入賞者披露演奏会等出演。岡崎音楽家協会会員。岡崎「第九」をうたう会の伴奏者。



ドイツ語朗読
小黒 びるぎった

1960年 ドイツ連邦ボン市生まれ。1980年よりケルン大学（Universität zu Köln）でフランス文学と教育学を専攻。国立音楽大学ケルン・ラインラント（Staatliche Hochschule für Musik Köln/Rheinland）で音楽教育と声楽とピアノを専攻。

1987年音楽教師国家試験合格。1991年ケルン大学博士課程中退。ベルクハイム市立青少年音楽学校などでピアノ、合唱指揮、声楽を教える。現在は中部大学国際関係学部でドイツ語とフランス語を教える。

第九への道



《アデライーデ》 Op.46

マティソンの詩によるこの歌曲は1794~95年頃、ウィーンでアルブレヒツベルガーに作曲を師事していた時期に創られました。

恋人アデライーデを自然の中で讃える歌曲で、詩は4節から構成されており、第3節まではおおむね穏やかに歌われますが、第4節では「僕の眠る墓の上に咲く花には、アデライーデの名がきらめくことだろう」と輝かしく歌われています。

作曲/1794~95年 初演/1797年
献呈/F. v. マティソン

1792年ウィーンに移る。ハイドンを弟子入りする。

1783年3つのクラヴィア・ソナタを出版。

1782年最初の作品「トレスラーの行進曲による9つの変奏曲」を出版。

1770年ボンに生まれる。

《君を愛す》 WoO 123

この曲の原詩はヘアロゼーの「やさしい恋心」ですが、その第2節以後に曲を付けたため、第2節の冒頭である Ich liebe dich (君を愛す) という名で親しまれています。

苦勞を分かち合う2人の愛の歌で、曲の最後は最終詩節の最後の2行「神が私のために君を守ってくださるように、私たち2人を守ってくださるように」を繰り返してクライマックスを形成しています。

作曲/1795年頃 初演/1803年

交響曲第3番 変ホ長調

Op.55 《英雄》

ハイリゲンシュタットの遺書から立ち直って交響曲第2番を書いて以降、ハイドンやモーツァルトなどからの影響も完全に克服した傑作が次々と生まれてきた時期の、はじめの力作がこの交響曲第3番です。当時ウィーン在住のフランス公使からナポレオンに新作を献呈するようにすすめられて、かねてから崇拜していたこの英雄のために大曲を書く気になったのだといえます。しかしナポレオンが皇帝に即位することを知って大変怒り、「ボナパルトと題す」という題が「シンフォニア・エロイカ」となったとされます。

作曲/1803年 公開初演/1805年
献呈/F. J. v. ロプコヴィッツ侯爵

ヴァイオリン・ソナタ第5番

へ長調 Op.24 《春》

明るく伸びやかなこの曲は、ベートーヴェンがウィーンに移って10年目に書かれました。「春」というタイトルは、彼自身が名付けたものではなく、この曲を聴いた人が付けたニックネームだとか。

また、10曲あるベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタの中で、4楽章制を初めて採用した曲です(この後、第7番・第10番が4楽章制で、他は3楽章制)。

作曲/1800~01年
献呈/M. v. フリース伯爵

交響曲第1番 八長調 Op.21

ベートーヴェンは交響曲という分野を、極めて重要視していたのでしよう。29歳にしてようやく書かれたこの曲は、彼がウィーンに出てから着想されたと考えられています。

ベートーヴェンとしては、ハイドンやモーツァルトなどの先輩作曲家の影響から抜け出て、本当に自分の個性的なものを示す方向に向かう意欲作に取り組んでいた時期でもあります。しかし、主題がモーツァルトのものに酷似しているとか、楽器編成もハイドン、モーツァルトのものに近いとかで、この交響曲が先輩の作品からの影響を完全に超越しているというわけではありません。

作曲/1799~1800年 初演/1800年
献呈/G. van スヴィーテン男爵

《ゲレルトによる6つの歌》

Op.48 から

第4曲「自然における神の栄光」

18世紀の高名な詩人ゲレルトは、この6つの宗教的な詩がコラル風の旋律で歌われるのを意図して創ったと言われています。ベートーヴェンは、彼の後援者であるブラウン伯爵の夫人アンナ・マルガレーテの不慮の死を悼んで、直ちに作曲しました。曲集全体は厳かな雰囲気、祈りを捧げる敬虔な人間の悔心と希望が歌われており、第4曲は「天は永遠なるものの栄光を讃え」と力強く歌い出されます。男声4部合唱として有名な歌曲ですが、今日は混声4部合唱でお聴きください。

作曲/1802年以前 初演/1803年
献呈/J. G. v. ブラウン伯爵

1800年初めての主催の音楽会を開く。交響曲第1番、ピアノ協奏曲第1番などを演奏。

1802年ハイリゲンシュタットに移る。「ハイリゲンシュタットの遺書」を書く。

バガテル イ短調 WoO 59

《エリーゼのために》

「エリーゼのために」と題されたこの曲は、実は「テレーゼのために」すなわちテレーゼという恋しい女性のために書かれた曲だった というのは有名な話です。しかし、愛しの「テレーゼ」がどこでどう「エリーゼ」に化けたのか定かではありません。

作曲/1810年

ピアノ・ソナタ第23番 へ短調

Op.57 《熱情》

ベートーヴェンにとってピアノソナタは交響曲、弦楽四重奏曲とともに重要なジャンルで、青年時代から50代の初めまで手がけ続け、32曲を残しています。熱情はその中でも中期の作品で、だいたい同じころに手がけられていた交響曲第5番「運命」などとともなベートーヴェンの作品の中でもとくに激しい音楽です。第1楽章では、交響曲「運命」でも使われている「運命の動機」がみられますが、今日は第3楽章をお聴きください。

作曲/1804~05年
献呈/F. v. プルンスヴィック伯爵

交響曲第6番 へ長調

Op.68 《田園》

ベートーヴェンお気に入りのハイリゲンシュタットで、第5交響曲とほぼ同時期に完成し一緒に初演されました。このように彼は、しばしば対照的な作品を同時期に作曲しています。また9つの交響曲のうち、ベートーヴェン自身が標題をつけたのはこの「田園」だけです。

この曲について、ベートーヴェンは「絵画的な描写ではなく、田園が人々に与える感情を描いた」と語ったそうです。音楽的にみても、従来の4楽章形式をこの曲では5楽章にし、第3~5楽章までを切れ目なく続けて演奏するという手法は、のちのロマン派に強い影響をあたえています。なお、残されたスケッチから知られるように、最初は第5楽章に声楽を用いようとしていましたが、実現しませんでした。

作曲/1808年 初演/1808年
献呈/F. J. v. ロプコヴィッツ侯爵とA. K. v. ラズモフスキー伯爵

ハイリゲンシュタット:

ウィーン市内北部にある町。静かで気持がよく、ベートーヴェンの好んだ自然の美しさにも恵まれていた。ベートーヴェンはよほど気に入ったらしく、11回も滞在した。だが31歳の時、すでに耳の病に苦しんでいた彼は、この町で部屋を借りると、二人の弟に宛てて「遺書」を残した。有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」である。遺書を書いた家は今でも博物館として残っている。

参考文献

ベートーヴェン、音楽之友社、1992年
ベートーヴェンへの旅、株式会社新潮社、1996年
Kerman/Tyson, Beethoven/J. B. Metzler

交響曲第9番 二短調

Op.125 《合唱》

この曲には「シラーの頌く歓喜によせる」による終末合唱をもつ」と記されています。これまでの古典的な交響曲が声楽を全然持たなかったのに対し、この曲ではじめて4人の独唱者と混声の合唱団を必要とするものが誕生しました。

このシラーの頌は、フランス革命直前の1785年にドレスデンで書かれたもので、独唱と合唱の交互の指定を持っています。ベートーヴェンは、このシラーの頌全体に音楽をつけたのではなく、自分の気に入った部分を選びだして、それをここで用いました。初演はウィーンのケルトナートアの宮廷劇場で行われました。ケルトナートアの宮廷劇場跡は、現在ホテル・ザッハーが建っていて、このチョコレートケーキが有名なザッハー・トルテです。

作曲/1822~24年 初演/1824年
献呈/プロイセン国王フリードリヒ・ヴィルヘルム三世

1810年テレーゼ・マルファッティに求婚するも断られる。

1819年聴覚の衰えが激しくなる。

1824年交響曲第9番初演。

1827年死去。



Group Profile

愛環音楽連盟 加盟団体 プロフィール

岡崎フィルハーモニー管弦楽団

「岡フィル」は72年の創立ですから、早いもので本年秋に創立29年となります。発足当時は十数名でしたが、その後仲間が増えて、約60名の市民オーケストラになりました。団員構成は会社員・教員・学生・主婦などです。

年2回の自主公演(定期演奏会・ポピュラーコンサート)に加え、岡崎市内を中心にして種々の催しに参加しています。定期演奏会では通常のクラシックのレパートリーを演奏しており、作曲家別ではベートーベン・チャイコフスキーとドボルザークがトップ3の演奏回数となっております。この中では、特にチャイコフスキーに思い入れがある人が多いようです。

2001年の1月28日(日)には、岡崎市民会館でベートーベン作曲 交響曲第1番とチャイコフスキー作曲 交響曲第5番を、7月1日(日)には幸田町民会館さくらホールでドボルザークのスラブ舞曲と交響曲第9番「新世界より」を演奏しました。

今年は都合により行いませんが、ポピュラーコンサートでは、映画音楽やゲーム音楽などのもっとリラックス出来る曲を演奏しています。

岡フィルの団員は、ひたすら音楽が大好きな人間の集まりで、最近ではIT革命の波に乗って?メンバーリストにより情報交換やら井戸端会議を楽しんでいます。

<岡フィル ホームページ>

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~iso3>

<連絡先>

444-0071 岡崎市稲熊町3-4-5 吉田和典

TEL : 0564-24-6905

-Mail : gkd39486@sun-inet.or.jp

瀬戸第九合唱団

瀬戸第九合唱団は昭和59年(1984年)に創立された「瀬戸第九をうたう会」の構成団体の一つです。

1986年、名古屋フィルハーモニー交響楽団・外山雄三氏による〈第九〉は「瀬戸第九をうたう会」の最初の大仕事でした。

以後、毎年の〈第九演奏会〉を積み重ね、今では〈瀬戸の第九〉として市民の熱烈な支持と、圧倒的な人気を博しています。

瀬戸第九合唱団は〈第九〉の演奏のほかいろいろな音楽的行事に積極的に参加し、瀬戸市及びその周辺の地域に音楽文化への「果敢な挑戦」を16年余にわたって続けています。

いま、愛環音楽連盟の一方の席を占める栄誉を担いながら、ますますその重責を自覚しています。

瀬戸第九合唱団は〈愛環音楽祭〉のあと、恒例の「せと市民祭」への参加を経て12月16日(日)かねてから企画をすすめていた瀬戸市民オーケストラとの〈手づくり第九〉演奏会をめざして団員一同練習に集中しているところです。

岡崎「第九」をうたう会

1983年6月、岡崎文化協会が市内の合唱団や市民に呼びかけて発足、半年間の合唱練習を経て、同年12月、指揮者に外山雄三氏、管弦楽に名古屋フィルハーモニー交響楽団を迎え第1回の第九演奏会を開催しました。それ以後、外山雄三氏指揮、名古屋フィルハーモニー交響楽団で毎年演奏会を続け、1997年からは関谷弘志氏を指揮者に迎え、今年12月15日(土)の演奏会は19回目となります。

当会は、毎年6月に発会式を行い、半年間練習を重ね、12月に演奏会を開催、翌年1月の反省会をもって解散という年間スケジュールを続けています。練習は、200名ほどの会員のうち約1/3が初心者のため、毎年基礎から始めます。合唱指揮者、ヴォイストレーナーに加え、ドイツ語の発音を専門に教えていただく指導者も迎え、初心者にも分かりやすい練習を心がけています。

また、同じ指揮者で長年演奏会を開催することは、年々より高いレベルの合唱を要求されることであり、このことが「岡崎第九」を常に成長させてくれています。

会員は、幅広い年齢層、職業もまちまちですが、「明るく、楽しく、しっかりと」を会のモットーに、初心者とベテランがお互いに影響しあい、助け合って「第九」に挑んでいます。

Kasugai

Seto

Toyota

Okazaki

春日井市管弦楽団

市民オーケである春日井市交響楽団は、市内の音楽愛好家たちによって、平成2年11月に創立されました。今年で12年目に入ります。「市民が演奏し、市民が聴く、春日井市民のオーケストラ」で、「カボ」(Kasugai Philharmony Orchestra)の愛称で親しまれています。

毎年、7月の定期演奏会と12月の「春日井市民第九演奏会」を中心に、オーケストラ活動を行っています。

団員は、会社員・公務員・教員・主婦・学生・看護婦・自営業者などからなる60名。私たちにとって、最大の喜びは、一人でも多くのおみなさまに演奏会においでいただき、クラシック音楽をお好きになっていただくことです。そのために、「有名な名曲の名演奏」を心がけています。先の7月に「ニューヨーク・シンフォニー・アンサンブル」とリムスキー=コルサコフの「シェラザード」を、満席の市民のおみなさまの前で協演しました。9月の第10回記念の定期演奏会では、念願の「幻想交響曲」に挑戦しました。

これからも、愛環音楽連盟のお仲間のご薫陶をえて、さらに市民のおみなさまに親しまれ、愛されるカボとなるようつとめますので、温かいご支援をお願いいたします。(団長 花村浩克)

豊田楽友協会管弦楽団

「豊田の町にオーケストラを」の願いから1988年4月、以前から活動していた豊田文協アンサンブル、豊田市吹奏楽団とともに「豊田楽友協会」を結成し、同時に「豊田フィルハーモニー管弦楽団」として誕生いたしました。

当楽友協会は管弦楽団と吹奏楽団がお互い独立しながらも常に連携しあい、演奏者の交流、練習場所と特殊楽器を共有する形で発展してきました。

昨年4月、団名称を「豊田楽友協会管弦楽団」と改名し、団員は約40名、技術的には未熟な部分が大変多い団ではありますが、「アットホームな雰囲気」と「常に前向きな姿勢」を大切にしながら練習に励んでいます。年1回6月の定期演奏会と12月のファミリーコンサートを活動の中心にし、バーンスタイン「シンフォニックダンス」など特色あるプログラムを企画し、市民の皆様にもご好評頂いています。

・豊田楽友協会ホームページ

<http://www.sun-inet.or.jp/~t-gakuyu/>

・次回演奏会 第2回ファミリーコンサート

2001年12月9日(日) カバハウスホール

プリテン「青少年のための管弦楽入門」より

ベルリオーズ 幻想交響曲より第4楽章

ムソルグスキー「展覧会の絵」より 他

春日井第九合唱団

平成5年、春日井市制50周年を記念して、故石丸寛氏指揮による「第九演奏会」が演奏されましたが、この成功を機に、春日井市民を中心に「春日井第九合唱団」を結成。以降毎年12月に開かれる「春日井市民第九演奏会」に、200名の大合唱団として出演しています。

本年12月2日(日)にも第9回演奏会に出演することとなり、現在240名余の団員が演奏会の成功を目指して練習に励んでいます。

創立以来、ベテランの指導者吉川朗先生等の熱心な指導に加えて、団長以下優れたスタッフ、経験豊かな団員の活躍が、新人を含めた多くの団員を勇気付け、毎年の「春日井市民第九演奏会」では、心のこもった質の高い演奏を生み、好評を博しています。

平成7年からは、「第九」の本練習に入る前に、基礎作りのため、特別練習として3~4カ月、「第九」以外の合唱曲にも挑戦することとし、演奏技術・音楽表現の向上にむけてがんばっています。その意味では、愛環音楽連盟への加入が音楽の幅を広げることとなり、「第1・2回愛環音楽祭」への参加は、我々にとって大きな収穫となりました。また本年6月30日(土)には、当合唱団としては始めて、特別練習の成果を発表する「ヨーロッパ うたのたび」演奏会を文化フォーラム春日井で開催し、好評を博しました。

豊田市民合唱団

昭和60年、「第九を歌う市民の集い」から「豊田市民合唱団」を発足させて16年になります。これまでに13回の「とよた第九」と15回の定期演奏会を開催したほか、「豊田合唱連盟合唱交歓会」「とよたジョイントコンサート」にも毎年参加するなど、豊田市を代表する合唱団として、意欲的に活動しております。

また、愛知県コンサートホールでの「第九」や「復活」、豊田市美術館の「クリスマスコンサート」に出演するなど、活躍の場を広げております。

愛環音楽連盟に加盟して、他都市の皆さんから刺激を受けるようになり、さらに地域の皆さんに愛される合唱団になるよう、「心に響く音楽」を求めて練習を重ねています。

今年は12月2日(日)6時から「第16回定期演奏会」を、豊田市民コンサートホールで、武満徹の「うた」プリテンの「キャロルの祭典」と「オペラ合唱曲集」で開催する予定です。是非お聴き下さい。

定期練習は、毎週金曜日7時から9時まで、吉川朗先生の指導のもと、豊田音楽練習場で行っております。

連絡先は都築和子 (tel.0565-32-7013) です。